

2025年7月4日

福岡と中国地方都市との双方向の観光PRについて

上海事務所長 亀石 泰斗

1. 福岡空港の拡充と福岡県－陝西省・西安線の就航

本年3月、福岡空港は第二滑走路の供用を開始し、国際線の発着枠を広げた。また、従来の約4倍の広さを持つ免税店やフードホールがオープンし、旅客の滞在環境と商業機能が大きく向上した。

こうした拡張効果を活かすにあたっては、中国市場、とりわけ内陸部をはじめとした地方都市の需要をいかに取り込むかが重要である。外国人旅行客の国籍・地域別の一人当たり買物代支出額では、中国は11.9万円で、韓国（2.9万円）や台湾（6.9万円）を大きく上回り、購買力の高さが際立つ¹。

昨年12月に就航した長竜航空の福岡－西安線（週2往復²、所要約3時間）は、福岡空港と中国内陸部を結ぶ唯一の直行便であり、今後の路線網拡大の試金石と位置づけられている³。そこで、今後の中国各地からの福岡路線新規就航の呼び水とするべく、福岡国際空港株式会社や陝西省政府などと協力し、西安市内にて観光セミナー及び商談会を実施した。

2. 陝西省西安市での観光セミナー・商談会

(1) 内容

「陝西省－福岡県文化観光セミナー・商談会」は本年3月19日、陝西省西安市にて、福岡県観光局と陝西省文化観光庁の共催で開催された。

福岡県側の参加者は旅行会社、手配会社、ホテル、観光施設などのインバウンド・アウトバウンド関連事業者やメディア関係者などを計28社・団体（41名）にのぼった。

また、陝西省側の参加者は陝西省文化観光庁長官をはじめ、省内の主要な旅行会社の経営者など約40名が参加した。

セミナー・商談会では、両地域がそれぞれの観光資源についてプレゼンテーションを行ったのち、インバウンド関連事業者とアウトバウンド関連事業者に分かれて商談会を実施した。

¹ 観光庁「インバウンド消費動向調査」（2024年暦年（確報））

https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/gaikokujinshohidoko.html

² 2024年12月17日就航以降、2025年2月19日までは週3便、2月20日以降は週2便。

³ 福岡国際空港株式会社への聞き取りによる。

会場には陝西省政府の呼びかけに応じて、西安テレビ、陝西日報などの現地主要メディアも相次いで取材に訪れた。また、陝西省政府のサポートを得て NHK、KBC、西日本新聞社、共同通信社などの日系メディアも、商談会に加えて普段は撮影困難な兵馬俑博物館の撮影・取材を行った。

(2) 商談会参加企業の声

会場では県内企業 13 社と中国企業 12 社との間で計 79 件の商談が行われた。そのうち、今後の取引等につながりうる有望な商談件数は 41 件であった。

参加事業者からは「(福岡県と陝西省単独のイベントであったため) 国内開催の他の商談会よりも福岡県を訪問先とする商品造成意欲の高いバイヤーが多く、有意義だった」

「具体的ニーズが把握でき、帰国後に商品化に着手したい」「10 件以上の成約見込み案件を獲得できた」といった声が寄せられた。

参加事業者向けアンケートでも、「非常に良かった」「良かった」が 100% を占め、全員が「次回も同様の商談会に参加したい」と回答した。



(写真) 商談会の様子

(3) 成果

今回の取組みは NHK (全国、BS、国際放送) で報道されたほか、KBC や西安テレビ、両地域の新聞各社などでも取り上げられ、福岡ー西安線の知名度向上に貢献した。その結果、福岡ー西安線の搭乗者数はイベント実施後に団体・個人ともに増加し、長竜航空によれば、搭乗者数は翌 4 月に 3 月比で約 10%、5 月には同 20% 超増加した。

また、県内の旅行会社によると、西安へのアウトバウンド客の予約件数も、イベント後の 2 か月間でそれまでの約 1.5 倍に伸びているという。

3. 今後の可能性

現在、中国各地の地方政府は消費促進策の一環として、外国人観光客誘致に力を入れている。今回のように、インバウンドとアウトバウンド双方向の取組を行うことで地元政府の協力を得て、PR 効果を高めることが期待できる。

また、アウトバウンド客の増加により路線運営が安定することで、さらなる路線の拡大や長期的なインバウンド客の誘客促進につながると考えられる。

当事務所では、今後も各地の地方政府や旅行会社等との関係構築に取り組んでいく。ご関心があれば、ぜひお気軽にお問い合わせいただきたい。